

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 機械受注統計調査(2010年2月)
～予想下振れだが、緩やかな持ち直し傾向に変化はない～

発表日 2010年4月8日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL: 03-5221-4528

(単位: %)

		民需 — 船舶・電力を除く						代理店		官公需		外需	
		製造業		非製造業									
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
09	1-3月	▲ 9.9	▲ 29.4	▲ 31.1	▲ 51.0	4.9	▲ 12.8	▲ 16.3	▲ 35.7	1.0	▲ 2.0	▲ 42.1	▲ 63.7
	4-6月	▲ 4.9	▲ 33.4	10.8	▲ 47.0	▲ 12.1	▲ 23.7	▲ 15.9	▲ 44.9	12.7	7.0	▲ 6.2	▲ 65.7
	7-9月	▲ 0.9	▲ 27.3	▲ 8.7	▲ 45.7	4.9	▲ 12.0	14.1	▲ 32.4	11.4	20.5	41.7	▲ 46.8
	10-12月	0.5	▲ 14.0	17.8	▲ 17.3	▲ 8.4	▲ 10.8	8.3	▲ 13.0	▲ 21.8	▲ 0.8	28.4	▲ 0.9
10	1-3月(見)	(2.0)	(▲ 2.5)	(2.3)	(22.0)	(3.5)	(▲ 11.1)	(▲ 6.7)	(2.6)	(2.6)	(▲ 7.2)	(▲ 148)	(46.6)
09	1月	▲ 3.8	▲ 39.5	▲ 27.7	▲ 56.7	9.2	▲ 24.9	▲ 1.5	▲ 28.2	13.3	5.3	▲ 43.2	▲ 71.2
	2月	0.6	▲ 30.1	▲ 3.1	▲ 56.3	2.4	▲ 10.2	▲ 10.2	▲ 39.3	▲ 8.5	▲ 9.6	▲ 26.1	▲ 74.3
	3月	▲ 1.3	▲ 22.2	21.8	▲ 43.1	▲ 3.1	▲ 6.8	▲ 3.4	▲ 38.0	1.9	▲ 0.8	46.4	▲ 48.7
	4月	▲ 5.4	▲ 32.8	▲ 9.4	▲ 49.4	▲ 8.8	▲ 19.3	▲ 3.0	▲ 40.0	22.1	6.9	▲ 21.5	▲ 66.1
	5月	▲ 3.0	▲ 38.3	5.4	▲ 49.5	▲ 6.9	▲ 29.0	▲ 19.3	▲ 55.3	▲ 11.1	7.2	▲ 13.3	▲ 73.7
	6月	9.7	▲ 29.7	14.6	▲ 43.0	7.3	▲ 22.8	18.4	▲ 38.3	4.6	7.0	43.8	▲ 57.8
	7月	▲ 9.3	▲ 34.8	▲ 20.4	▲ 50.7	▲ 2.8	▲ 21.7	5.7	▲ 36.5	25.2	37.6	21.8	▲ 45.0
	8月	0.5	▲ 26.5	4.9	▲ 42.1	▲ 0.6	▲ 13.9	3.7	▲ 28.6	▲ 7.2	30.6	▲ 15.7	▲ 54.4
	9月	10.5	▲ 22.0	▲ 0.1	▲ 44.2	18.0	▲ 3.0	4.4	▲ 31.7	▲ 17.0	7.0	25.9	▲ 41.9
	10月	▲ 4.5	▲ 21.0	25.4	▲ 26.7	▲ 17.3	▲ 13.3	2.1	▲ 22.4	▲ 14.4	▲ 7.1	15.3	▲ 4.5
	11月	▲ 11.3	▲ 20.5	▲ 18.2	▲ 17.6	▲ 10.6	▲ 22.1	4.0	▲ 8.9	13.3	▲ 0.8	▲ 7.3	0.7
	12月	20.1	▲ 1.5	17.1	▲ 6.5	22.9	2.2	▲ 2.2	▲ 5.8	▲ 5.5	5.3	20.9	0.4
10	1月	▲ 3.7	▲ 1.1	3.3	34.3	▲ 12.9	▲ 18.3	6.4	1.9	20.8	13.5	▲ 8.8	60.9
	2月	▲ 5.4	▲ 7.1	▲ 0.3	37.2	▲ 4.0	▲ 23.4	2.9	16.5	▲ 21.2	▲ 1.7	8.4	137.3

(出所) 内閣府「機械受注統計」

○ 緩やかな持ち直し傾向に変化なし

内閣府から発表された2月の機械受注（船舶電力除く民需）は前月比▲5.4%と2ヶ月連続の減少となり、事前の市場予想（前年比+3.9%、レンジ：▲3.5%～+13.0%）を下回った。筆者は前月比増加（+5.0%）を予想し、機械受注底打ちの動きが一段とはっきりすると見ていただけに、期待を裏切られる結果である。もっとも、機械受注は振れの大きい統計であることから、今月の結果をもって設備投資の先行きに弱気になる必要はないだろう。実際、1-2月平均の値は10-12月期を1.5%上回っており、機械受注が振れを伴いながらも緩やかに持ち直しに向かっているという状況に変化はない。1-3月期が前期比でプラスになるためには3月が前月比▲1.8%を上回れば良く、10-12月期に続いて2四半期連続の増加となる可能性は高いだろう。また、内閣府見通しである前期比+2.0%については、3月に前月比+4.3%であれば達成できるが、これも十分実現可能と思われる。

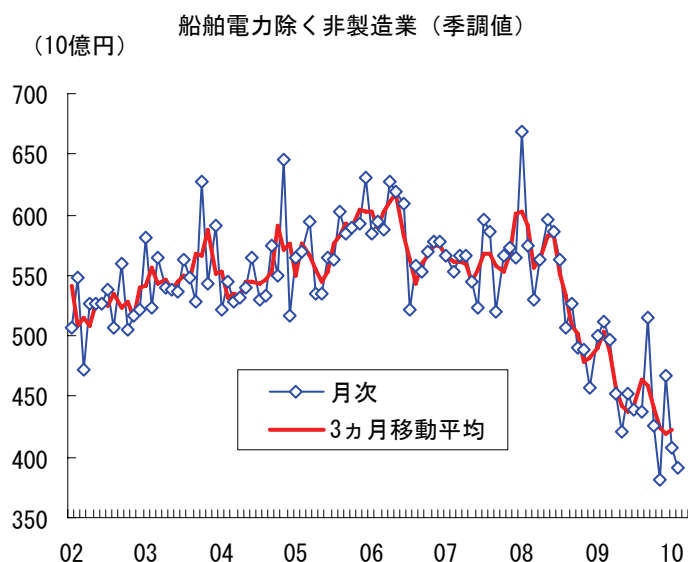
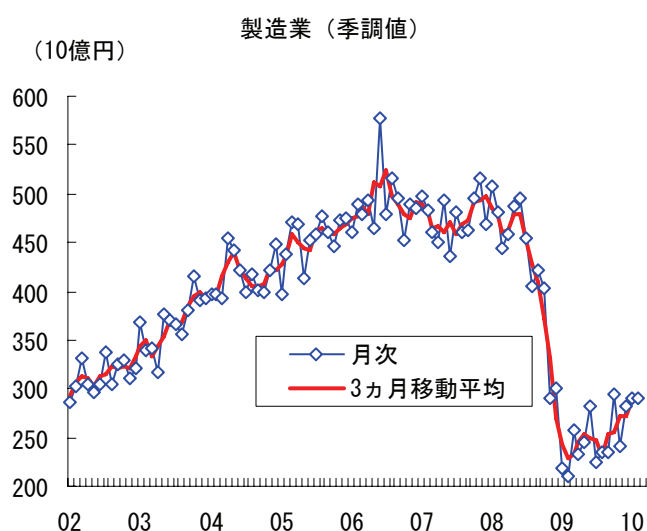
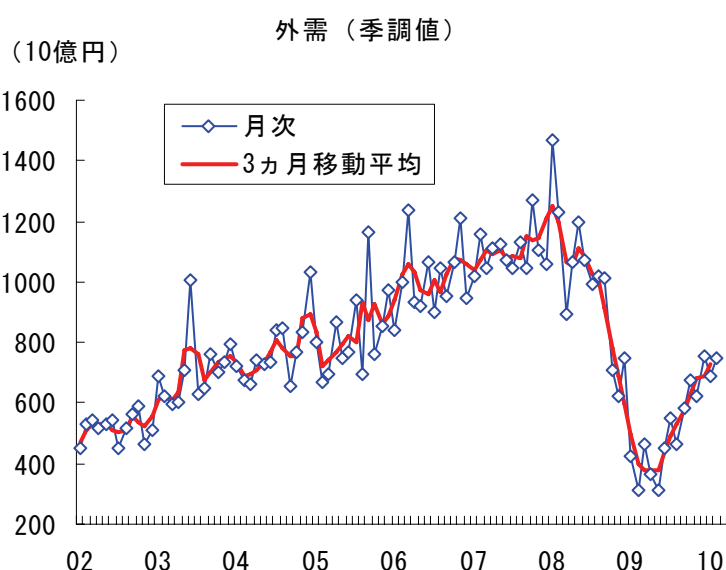
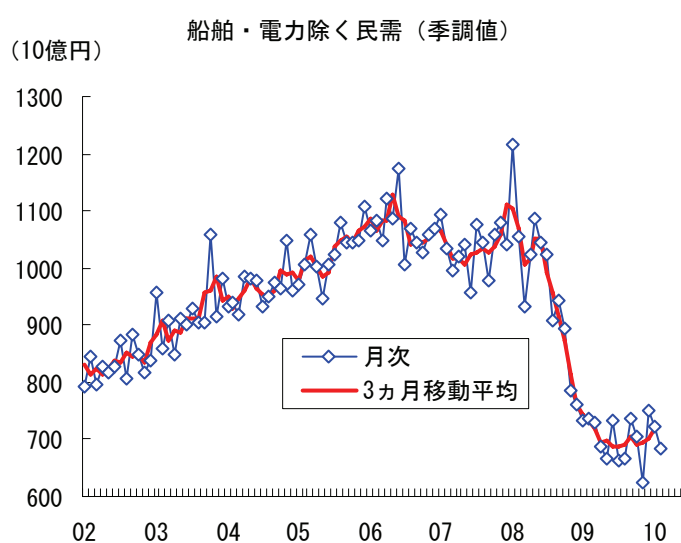
こうした機械受注の緩やかな持ち直しを主導しているのが輸出関連の製造業である。09年4-6月期以降の輸出回復を受けて、輸出関連製造業の収益、生産活動は急速に持ち直しており、リーマン・ショック以降冷え込んでいた投資意欲が持ち直しに転じている。今後は製造業主導での設備投資回復が期待できるだろう。増産投資に期待できず、更新投資中心になることに加え、非製造業の投資停滞や建設投資の減少が足を引っ張ることから、過去の景気回復局面と比べて増加ペースは緩やかなものになることは避けられないが、09年7-9月期までの景気を大きく下押ししてきた設備投資が増加基調に転換することの意味は大きい。

○ 製造業が牽引も、非製造業は弱い

業種別にみると、製造業は前月比▲0.3%とほぼ横ばいになった。化学（製造業に対する前月比寄与度：▲2.5%Pt）、鉄鋼（同▲3.7%Pt）、金属（同▲1.5%Pt）等の素材業種の減少が目立ったが、12、1月に

高水準だった反動が出たものと考えられ、特に問題はないだろう。主力どころである自動車、一般機械、電機といった業種は増加基調が続いており、製造業の受注が回復傾向にあることに疑いは無い。1-2月平均の値は10-12月期を6.8%上回っていることから見ても、1-3月期の値が内閣府見通しである前期比+2.3%を上回ることにはほぼ確実だろう。輸出増加に伴う収益回復や企業マインドの持ち直しを受けて、製造業の設備投資の回復傾向がはっきりしてきたようだ。稼働率の水準が依然高く、設備過剰感も残存していることから、増産投資は今後も限定的なものにとどまるとみられるが、更新投資を中心に回復が続くと予想される。

一方、厳しい状況が続いているのが非製造業である。2月の受注は前月比▲4.0%と、1月の同▲12.9%に続いて減少した。1-2月平均の値も10-12月期を▲6.0%下回っており、非製造業からの受注が下げ止まる兆しは窺えない。製造業部門が外需回復の恩恵を受けている一方、内需の弱さの影響を大きく受ける非製造業部門では、なかなか回復の糸口がつかめない。また、少子高齢化が今後ますます進展することが確実視されるなか、内需の先行きに対する長期的な成長期待が低下していることも、非製造業の投資抑制に繋がっていると考えられる。今後も非製造業の回復に大きな期待はできないだろう。



（出所）内閣府「機械受注統計調査」